

第1号議案 令和元年度事業報告の件

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

【事業概要】

令和元年度は、新しい時代の幕開けでした。その新時代を祝うようなわくわく感があり、みんなが楽しみながら活動しその結果、八王子の地域が元気に発展するような取り組みを企画実施しました。

八王子駅南口のサザンスカイトワー下の広場において9月に開催した「NPOフェスティバル」は、市内で活動する市民活動団体やグループをひろく市民の方に知ってもらい、また団体同士も交流を図ることを目的に開催しました。多くの方に来場いただき、フェスティバルのように賑やかで華やいだイベントとなりました。

八王子市の内外から多くの団体や市民を集めて2月に開催した「NPO八王子会議」は、NPO法施行から20年が経過したいま、もう一度自分たちの活動の意義や課題を見直し令和スタイルのNPO活動とは何かを考える契機となるように、“NPOの夜明けふたたび”と題して開催しました。こちらも会場がいっぱいになる大勢の参加者で盛況でした。

しかし令和2年が明けると間もなく、新型のコロナウィルスが猛威を振るい今日にいたっております。その影響により、協議会が毎年メインのイベントとして位置づけ、下期多くの時間を実行委員会とともに準備に充ててきた「オトパ(お父さんお帰りなさいパーティー)」が中止を余儀なくされたことは本当に残念でした。

八王子市から指定管理者として管理運営を受託している八王子市市民活動支援センター(以下:支援センター)については、八王子市の指導の下、センター長以下スタッフにより良好な運営を実施しています。昨年度は4月に支援センター長の交代があり、新たな取組もはじまりました。常に市民目線で使いやすい支援センターを目指しています。支援センター事業についての詳細は後掲いたします。

平成25年度から企画運営を八王子市から受託している「はちおうじ志民塾」は第11期の卒塾生21名を地域へと送り出しました。卒塾後も協議会のネットワーク等を活かして今後の皆さんの活動をフォローしていきます。

協議会の意思決定は月1度の定例の理事会です。理事相互の情報を共有するとともに現状の課題を真摯に検討し、意思決定機関としての理事会の機能を高めることに努めました。また、指定管理者の受託更新を見据え、支援センター事業検討プロジェクト会議を継続し、従来の企画運営会議と一緒に検討を続けてまいりました。

協議会の自主事業としては、総務部、広報部、交流推進部、地域ネット部、政策研究企画部、その他プロジェクトから構成されています。

昨年度の総務部の事業としては、新年交流パーティー、東京都が運営する「女性・若者・シニア創業サポート」事業の窓口業務とアドバイザー業務です。セミナーの回数を増やし、基本の創業セミナーに加え業種別のセミナーも開催して参加者も増加し、毎回盛況なセミナーとなっています。東京都が地域に根差す創業を支援する制度である「女性・若者・シニア創業サポート事業」は、地域で活動する市民や団体をサポートし、いきいきと活動してもらうことで地域が活性化し発展することに寄与したいとする当協議会の目的に合致するものです。特に人生100年時代を迎えてシニアの就業は地域を支えるうえでも重要なことです。今後もさらに力をいれていきたい事業の一つです。

広報部は「協議会だより」の発行とホームページの管理を、交流推進部は「いちよう祭り」のF会場「わくわく広場」の開催運営、地域ネット部は「活き生きハンドブック」データ版の整備を担当しています。政策研究企画部は、協議会の組織内シンクタンクの機能を期待された協議会の要的部門です。各部の報告の詳細は後掲します。

諸々の課題はありますが、これらに一つずつ真摯に対応してきた1年だったと思います。

【1】八王子市民活動協議会の運営組織

1. 理事会

①定例理事会:基本的に月に1回第4火曜日に理事会を開催しています。可能な限り議事案および関連資料を事前にグループウェアのサイボウズにアップし、理事全員に目を通していただくことを前提とし、会議の効率化を図っています。

②理事研修会:8月には本年度実施される次期指定管理者申請を念頭に「市民活動支援センター」の課題と将来計画を討議いたしました。理事が3グループに分かれ支援センターのあるべき姿について、様々なアイデア出しを行い検討しました。新たな新事業計画も含め本年度の指定管理者申請に向け有意義な研修をおこないました。

2. 三役会

メンバーは理事長、副理事長、事務局長、各専門部会部長、支援センター長計8名で構成しています。基本的に理事会の2週前に開催し、各部門の進捗・問題点、協議会共通事項に関して1次検討を行い、理事会に提案しています。

3. 企画運営会議の開催

原則として四半期毎に1回開催の会議であり、支援センターの適正な運営やサービス機能向上を図ることを目的としています。しかし、昨年度は次期指定管理者申請に対応するためにこの会議の機能を拡大し、支援センター事業検討プロジェクトとして、構成メンバーである三役会理事に有志の理事を加えた形で、月1回の頻度で開催をいたしました。

【課題と評価】

8月の理事研修会や、支援センター事業検討プロジェクトでは、協議会のあるべき姿について、理事より様々に意見が交換されました。主なものとしては、「情報発信力の強化」、「協働推進力の強化」、「収益事業の強化」、「政策提言機能をもつ」、「専門性の強化」などです。

令和元年度、支援センター事業として実施した9月のNPOフェスティバル、2月の第7回NPO八王子会議は、実質は協議会が企画・運営にあった事業ですが、この2つの事業は、協議会のこれからの方向づけとしての「情報発信力」、「協働推進力」、「専門性」などの強化の道筋を示す事業であったと評価することができます。

【2】支援センター事業

平成31年の最後の一か月から令和元年へと改元となった節目の一年ですが、私たち八王子市市民活動支援センターとしても新体制のスタートとなり、前年度に設定したビジョンとミッションを意識的に取り組む一年となりました。

ビジョン「私たち一人ひとりがつながって、夢をカタチにできる八王子」の実現を目指すため、

ミッション「社会課題と市民・団体の力をつなぎます。市民が社会貢献活動に参加し、NPO・市民活動団体がチカラを発揮できるよう、さまざまな事業を通じ支援します。」

の言葉に沿って業務にあたってきました。

ミッションは、さらに以下の6つの文で示しました。

- ① 活躍のための「場」がここにはあります
- ② 市民活動の相談ができます
- ③ 市民活動の情報があります
- ④ 講座やイベントを開催しています
- ⑤ 多様な連携をコーディネートします
- ⑥ ヒト・モノと団体をつなぐ「参加」を創ります

これらの6つを市民にアピールしつつ、市内でのセンターの存在を高めるためさまざまな試みを行い、また、これに呼応するかのようにセンターにはさまざまな方が訪れました。

従来から来所されていた定年退職後の市民以外にも、NPO活動を社会貢献的な収益事業としてとらえ、起業を目指す方々も来所されました。活動の広がりをもととしてメンバー募集や他団体との連携、イベント集客についての相談もありました。また、NPO法人だけでなく一般社団法人としての地域への社会貢献団体の設立を目指す方も来訪されました。

このようなNPO支援のあり方の変化も感じる一年でありましたが、私たち八王子市市民活動支援センターでは、さまざまに変容する市民の活動に対応するべく、新しいトレンドの知識も得ながら、次年度よりの業務に役立てていきたいと考えております。

1. 施設利用状況

上段：令和元年度、下段：平成30年度 *添付資料参照：「令和元年度施設・会議室利用状況報告」

交流室	活性化室	フリースペース	コピー機	印刷機	面談相談	来所他	電話相談	電話他	メール相談
837	723	3083	366	180	128	420	57	1923	7
945	787	3263	354	261	52	455	20	2384	2

【課題と評価】

センターに来所していただくことを広報紙やSNS等でアピールしたところ、興味を来所していただくことが増え、面談相談の数も増えました。フリースペースは微減となりましたが、打合せ、印刷物の軽作業など滞在時間の長い利用が目に見えて増え、午後は多くの方の利用で、すべての机が埋まってしまう日も多々ありました。

2. 調査研究活動

市民活動に関する多様な相談に対応すると共に、効果的なサービスを提供するためには社会環境の課題やNPO、市民活動の実態把握が大変重要であり、スタッフが外部イベントや講習会等へ参加しスタッフのレベルアップに努めました。ファンドレイジング大会や「BUSINESS to NPO World 2019 (NPOをビジネスと捉え、それをITの力で活性化させる企業の展示会)」にも参加しました。また、今年度も利用満足度調査を実施しました。さらに市民活動団体が何を求めているかを知るための団体調査を行い、551団体にアンケートを出したところ、128団体から回収することができました。

【課題と評価】

利用満足度調査の結果は、引き続き「満足」、「やや満足」で98.0%の高評価を頂きました。その他、職員の対応について好意的な評価をいただくとともに、会議室利用については利用したい時間が他の団体と重なってしまう不満等もありました。こうしたことは団体活動が活発化し、センターの利用が多くなれば必然の課題かもしれませんが、今後検討していきたいと思っております。

また、団体調査では、85%の方がセンターを利用したことがある、との回答を得ました。その他、中央地区以外にもこうした拠点が欲しい、市民や団体が連携ができる仕組みづくりを担ってほしい等の意見がありました。

3. 総務部の活動

(1) 相談対応及び専門相談

支援センター業務の大きな柱である相談業務は、相談者に寄り添い、受け止めるという基本的な考え方のもとスタッフ全員で対応しています。今年度、相談受付に関する告知を積極的に行い、電話等で連絡をいただいた市民にはさまざまな視点からの助言ができることを伝えたと、継続的に来所する団体の方も増え、面談相談の数が増加しました。

専門相談はNPO経営支援アドバイザー派遣制度の活用やNPO法人との提携により、経理、労務、税

務等の相談に対応しています。

本年度は特に専門書籍を整備し、多くの分野にわたり専門的なアドバイスをセンター職員が団体へ示すことが出来る体制づくりに力を入れました。

【課題と評価】

本年度は、NPO 法人設立、NPO 法人運営、団体の会計等のバックオフィス関連のことや、助成金獲得や効果的な広報、他との連携等の相談がありました。

活動分野としては、定年退職後のコミュニティビジネス、児童の健全育成、買い物難民対応、山間部での福祉の拠点づくりに取り組む団体があり、法人格を持つ持たないにかかわらず、地域をよくする仕組みを模索するさまざまな団体がセンターに来所され、団体からは、このセンターで相談することができてよかった、という声を多くいただきました。なお、NPO に関するイベント等の招待や依頼にも対応しました。

○主な対外対応

10月11日 日本政策金融公庫八王子支店ソーシャルビジネスセミナー講師として参加

11月15日 Business to NPO World 視察及び講座参加 場所 渋谷区広尾、聖心女子大学

11月30日 助成財団シンポジウム 主催助成財団センター、共催東京・ボランティア市民活動センター 場所 八王子労政会館

【課題と評価】

支援センターは、スタッフが、来館の方々に必要な対応をすると同時に窓口や電話対応だけでなく、積極的に現場に足を運び、様々な方々や団体との交流により、ネットワークづくりや連携、協働の基礎づくりを進め、コーディネート力向上や支援センターの認知度、総合力アップに取り組みました。

本年度は、助成財団センターと東京ボランティア・市民活動センターより依頼があり、11月に、八王子労政会館で、東京地区としては8年ぶりとなる「助成財団シンポジウム」をセンター共催で開催することができました。

このイベントでは、多くの民間助成財団の担当者と市民団体が参加し、助成金についての理解のきっかけづくりとして東京多摩市区の大規模イベントとなりました。

4. 広報部の活動

広報部は、社会を取り巻くさまざまな課題をタイムリーに捉え、そうした活動の中から市民や多様なセクターが、気付きや連携の糸口を得、まちづくりや地域参加のための市民力、地域力向上に貢献できることも大きなねらいの一つとして広報紙「SUPPORT802」を中心に情報発信を行っています。

(1) 広報紙「SUPPORT802」について

本年度制作した広報紙の概要は以下の通りです。

発行号数	発行日	特集記事(取材団体)	部数
第90号	令和元年5月1日	「『私たちの一人ひとりがつながって夢をカタチにできる八王子』を目指して！」(市民活動支援センター)	5000部
第91号	令和元年7月1日	「一度は人の手を離れ空き家となった場所 そこは、みんなが集える『居場所』になった！」(みんなの居場所「暖炉」)	5000部
第92号	令和元年9月1日	「その困りごと、プロボノがお助けします！」(市民活動支援センター ファンド部)	5000部
第93号	令和元年11月1日	「この冬 あなたも誰かのサンタクロースに！」(NPO 法人チャリティサンタ 多摩支部)	5000部
第94号	令和2年1月1日	「まちのしあわせを『デザイン』する～人が繋がる『コミュニティデザイン』という仕掛け～(NPO 法人フュージョン長池、法政大学@団地、法政大学カフェ部)	5000部
第95号	令和2年3月1日	「本質を語り合う中で生まれるつながり～各地に広がる『哲学カフェ』～」(はちおうじ哲学カフェ「学び愛」)	5000部

※主な配布先:センター登録団体、協議会会員、市内公共施設、市内各駅の広報スタンド、中間支援団

体、市内NPO法人、配布希望町会・自治会、その他(八王子町会自治会連合会、八王子老人クラブ連合会、八王子センター元気、八王子レクリエーション協会、紙面掲載団体他)、北原国際病院、西武信用金庫八王子支店・檜原支店・北野支店、多摩信用金庫京王八王子支店

- ・第90号では、支援センターパンフレット刷新と新センター長着任というタイミングもあり、改めて市民活動支援センターの取り組みを紹介し、新たなセンター利用層の拡大を図りました。
- ・第92号では、ファンド部と連携する形で記事制作を行いました。
- ・第94号では、啓発部で企画した NPO 実践講座(山崎亮さんに聞く！コミュニティデザイン)と連動し、八王子市内でコミュニティデザインと捉えられる事例を取材し、講座への関心をより喚起することを目指しました。原則、隔月開催の広報部会で広報紙の制作方針を決定し、取材を敢行。取材後に実施する編集会議において紙面構成の考え方を擦り合わせ、校正ののち入稿～発送という流れで制作しています。

【課題と評価】

○広報紙制作プロセスに関すること

広報紙制作スケジュールは予め部会で立て進捗管理を行っているものの、読み合わせや取材のための日程調整の難しさもあり、ぎりぎりのスケジュールで進めざるを得ない状況が続いています。それでも、予定通りに広報紙を発行することができているのは、ひとえに広報部員が互いにできることで補完合っていることに尽きると考えています。

目の前のスケジュールに追われてしまい、取材や編集スキルの蓄積に意識が及んでいないことが課題であると考えています。広報部に関わることで、1人1人が知識や技術を蓄積しているという実感を持つような仕掛けをつくるのが、次年度に向けた課題の1つです。

○サポートスタッフ体制に関すること

今年度は後半、サポートスタッフの退任に伴う新規加入により体制が一新され、ライター経験のあるスタッフやグラフィックデザイン方面への進路を考えているスタッフが加入し、専門性が強化されました。互いの得意分野を活かしながら部の運営を図り、広報部員のスキルアップを図っていきたいと考えています。また、このことが広報紙制作プロセスに関することで述べた課題へのソリューションの1つともなりうると考えています。

(2) メールマガジン「SUPPORT802 だより」について

活動内容 本年度の発行概要は以下の通りです。

号数	配信日	主な内容	配信数
No.123	平成 31 年 4 月 1 日	巻頭言「平成最後のメルマガ」ほか	620
No.124	令和元年 5 月 21 日	巻頭言「新元号『令和』を迎えて-センターのビジョンとミッション-」ほか	623
No.125	令和元年 6 月 12 日	巻頭言「みんなの居場所『暖炉』を訪ねて」ほか	623
No.126	令和元年 7 月 18 日	巻頭言「ファシリテーションとコーディネーション」ほか	624
No.127	令和元年 8 月 4 日	巻頭言「オリンピック・パラリンピックまであと 1 年」、アクティブ市民塾「声から見える子どもたちのいま～電話を聴いている側から～」ご案内ほか	626
No.128	令和元年 9 月 1 日	巻頭言「『祭り』に見る『参加』～NPO フェスティバルに寄せて～」、「NPO パワーアップ講座 2019」ご案内ほか	626
No.129	令和元年 10 月 4 日	巻頭言「グレタさんのスピーチと、若者たちの行動」、アクティブ市民塾「心をほぐす箱庭カフェ体験」ご案内ほか	628
No.130	令和元年 11 月 12 日	巻頭言「台風 19 号災害について」、台風 19 号で被災された団体様に向けた物品の無償提供のご案内ほか	635
No.131	令和元年 12 月 4 日	巻頭言「2019 年の八王子市市民活動支援センター～2020 年もよろしくお願ひいたします～」ほか	636

No.132	令和2年1月11日	巻頭言「2020年のはじまり～東京オリンピック・パラリンピックに絡めて～」ほか	641
No.133	令和2年2月13日	巻頭言「自由な対話の場としてのワールドカフェ～NPO 八王子会議に寄せて～」、「第7回 NPO 八王子会議」ご案内ほか	641
No.134	令和2年3月	巻頭言「新型コロナウイルスについて」ほか	646

※上の表の「主な内容」に加え、センター主催事業の開催案内や、助成金情報などを盛り込んでいます。

【課題と評価】

広報部会では、サポートスタッフが直接メルマガ制作に関わっていないこともあり広報紙に関する議論に終始してしまい、メルマガの方針・あり方について議論を行う場面が年間を通じて取れませんでした。そのため、メルマガならではのコンテンツ配信に踏み切れていないのが現状です。

SNS などをはじめ、さまざまなメディアが乱立する時代において、メルマガの有用性について意見交換を踏まえ、内容の精査を図っていきたいと考えています。

5. 啓発部の活動

今年度も団体活動のステップアップを狙ったパワーアップ講座をはじめとした支援講座や市民の方に市民活動を知っていただくためのアクティブ市民塾など、多角的に市民活動を周知するためのプログラムを実施することができました。

令和元年度のセンターの重点項目のひとつである支援センターの認知度をあげることについても、「アクティブ市民塾」や実践講座と通じて貢献できました。

(1) アクティブ市民塾

活動内容

月日	分野	団体名	タイトル	定員	申込人数	参加数
4月14日(日)	福祉	NPO 法人 ルーツ・ユアセルフ	こころの健康を取り戻す 畑で植え付け・収穫体験	15名	26名 ※1	17名
7月27日(土)	子供	浅川地下壕の保存 を進める会	夏休み親子向け昭和の戦争遺 跡を訪ねる浅川地下壕見学会	18組	15組 39名	14組 36名
9月1日(日)	福祉	NPO 法人 チャイルドライン	声から見えてくる子どもたちのい ま～電話を聴いている側から～	20名	26名 ※2	22名
10月27日(日)	健康	カウンセリングスペ ース まてりあ	心をほぐす箱庭カフェ体験	30名	41名 ※3	23名
12月1日(日)	健康	宇津貫みどりの会	紅葉の里山散策～宇津貫緑地 を歩く～	30名	63名※4	34組 45名
2月2日(日)	福祉	NPO お金と金融・ 経済知識を学ぶ会	備えあれば憂いなし-お金・介 護・医療、認知症になる前に準 備しておきたいこと	20名	29名 ※4	25名
合計 6 回開催						180 (105)

【課題と評価】

定員の少ない講座については「広報はちおうじ」に掲載する際の条件として、定員を上回る申込があった場合は抽選を行うことになりました。6回開催のうち5回は定員を上回る申込をいただき、2回は抽選を実施しました。申込方法や抽選結果のお知らせ方法など試行錯誤の1年でしたが、来年度も多数の申込をしていただけるよう団体の魅力的な側面に焦点を当てた講座を企画していきます。

(2) 実践講座 1

活動内容

月日	タイトル	講師	定員	参加人数
1月17日(金)	山崎亮さんに聞く コミュニティデザイン成功の秘訣	studio-L 代表 山崎 亮	50	72

【課題と評価】

定員を上回る方に参加していただき市民のコミュニティデザインについての関心の高さに応えることができました。コミュニティデザインという言葉だけは聞いたことがある市民がその意味を正しく理解し、まちづくりに活かすきっかけづくりになりました。

(3) 支援講座 1

活動実績

開催日	テーマ	講師	定員	参加人数
9月29日(日)	もっと活動を充実させるためにプロの手を借りる方法	市民活動支援センター ファンド部	30名	16団体31名
12月8日(日)	審査員体験から学ぶ助成金申請書の書き方	NPO法人NPOサポートセンター 事務局長 小堀 悠	20名	9団体13名
			計	25団体44名

【課題と評価】

今年度は、プロボノについての普及啓発を行う講座と多くの団体に共通の課題である運営資金に関する講座を行いました。

プロボノに関しては、この事業に取り組んでいるファンド部と連携し、日本でプロボノについての旗振り役である講師を招いて、八王子市内のこれまでの事例を交えながらの講座となり、参加者から高評価を得ました。

資金については、助成金を獲得する方法として、数多くの助成金審査に携わってきた講師を招き、参加者に審査員の模擬演習を行ってもらうことにより助成金獲得のノウハウを理解していただき、有意義な講座となりました。

(4) 支援講座 2 (NPO パワーアップ講座)

活動内容

	開催日	タイトル	講師	会場	参加人数
1	8月30日(金) 14:00~16:30	団体の理念・ビジョンを共有することの意味とその方法	呉 哲煥さん (NPO法人CRファクトリー代表理事)	クリエイトホール 第2学習室	17名 (5名) ※1
2	9月20日(金) 14:00~16:30	NPO 共通の悩み『温度差』に焦点をあてる	呉 哲煥さん (NPO法人CRファクトリー代表理事)	クリエイトホール 第2学習室	16名 (4名)
3	10月18日(金) 14:00~16:30	メンバーのやる気や主体性を引き出すマネジメント	呉 哲煥さん (NPO法人CRファクトリー代表理事)	クリエイトホール 第2学習室	20名 (5名)
4	11月29日(金) 14:00~16:30	NPOを支えるお金 ～概要編～	小堀 悠さん (NPO法人NPOサポートセンター)	クリエイトホール 第2学習室	25名 (4名)
5	12月13日(金) 14:00~16:30	NPOを支えるお金 ～実践編～	小堀 悠さん (NPO法人NPOサポートセンター)	クリエイトホール 第2学習室	20名 (4名)
6	1月24日(金)	人が集まる講座とチラシの作	坂田静香さん	クリエイトホール	42名

	14:00～16:30	り方	(NPO 法人男女共同 参画おおた理事長)	第 2 学習室	(5 名)
7	2 月 21 日 (金) 14:00～16:30	情報発信の重要性と効果的 なチラシの作り方	手塚 明美さん (認定 NPO 法人藤 沢市市民活動推進 機構理事・事務局長)	クリエイトホール 第 2 学習室	26 名 (4 名)

※1()内はセンタースタッフの参加人数

【課題と評価】

今年度も団体に原則として連続的に受講をしていただきました。7つの講座は、「活動目的」と「ひと」、「お金」、「情報発信」に分かれていて、外部からそれぞれの専門家を講師に招きました。

それぞれの講座では、団体同士のディスカッションの時間を設定し、講義のテーマに関する横の連携を促進し、参加団体にとっての活動の広がりも意図しました。

6. 情報部の活動

(1) 支援センターホームページの改善、維持・改造

活動内容

- ①Web サーバーおよびメールサーバーの安定稼働
 - ・さくらインターネットへサーバー移転後、大きなトラブルもなくセキュリティ監査も問題なく、安定稼働しています。
- ②サーバーのセキュリティ脆弱性の対応状況を随時把握
 - ・SPAM メール判定を強化、指定管理者情報セキュリティ監査(システムの監査)を実施しました。
 - ・市からの J-LIS 情報をもとに Apache のバージョンアップ作業を行いました。
- ③コンテンツの充実
 - ・サイト内検索機能を追加しました。(現在は削除)
 - ・広報紙の掲載を手動作業によるアップロードからスタッフが管理画面でできるように機能強化し、いち早く市民に広報紙を届けられるようになりました。
 - ・イベント・講座の申込フォームで、すでに定員に達したイベント・講座についてはフォームを表示しないように機能追加し、市民が「フォームから申し込んだのに後で断られた」という状況が出ないようにしました。
 - ・LINK リストのページが定期的にメンテしないと正確性を欠き、かつ需要が低いコンテンツと判断し削除する予定。当初予定の貸出可能な図書リストの公開はニーズが少なく見送りました。

【課題と評価】

- ・支援センターの Web サイトはデータセンターの変更、VPS への移行により、五大システムによるメンテナンス性の向上と、市のセキュリティ監査に耐えうるものになりました。稼働も安定しており、大きな変動はないが市民からのアクセスも続いています。スタッフ業務と連動した機能強化も随時行っています。
- ・スマホ対応をしていないところ、他の Web サービスとサービス連携していないところ、はちコミねっととの 2 サイト分離状態、町会自治会や社協などのイベントなど、市民が知りたい情報のワンストップサイト化ができていないところが課題です。

(2) 【はちコミねっと】の保守および活性化

活動内容

○団体への普及啓蒙および問い合わせ対応

- ① はちコミねっと団体向け講習会
 - 登録団体向けに操作方法を理解していただく講習会を 6 回実施しました。
 - また、市民企画事業補助金採択団体向け講習会を 2 回実施しました。
- ② はちコミねっと団体向け個別講習会
 - パソコン操作に不慣れな団体向けに、マンツーマンで操作方法を指導する個別講習会を 4 回実施しました。

- ③ メルマガ会員の増加
はちコミねっとのチラシを改版し全団体に広報と一緒に配布しました。
3月時点で644人が登録しています。
- ④ アクセス状況等の把握
3月時点で439団体が登録しています。
定期的にアクセス状況を測定しました。また、団体別のアクセス状況が把握できるようパーソルワークスデザインに要望したが、別途オプション料金がかかることが判明し断念しました。
- ⑤ システムメンテナンスおよびベンダー対応
元気365システム機能の改善要求を行いました。
- ⑥ ユーザサポートおよびユーザマニュアルの改訂
パーソルワークスデザインが著作権を保持していたはちコミねっとの団体向け操作法説明書の改版権を獲得し、従来補助マニュアルとして発行していたものと融合させ第2版として正式発効しました。同時にマニュアルの不備も修正しました。併せて、団体が掲載する写真の肖像権や著作権につきガイドラインを設定しました。
- ⑦ 新元気365システムへの要望
創価大学安田ゼミより、はちコミねっとのヒアリングと、情報のプッシュ機能および団体のレコメンド機能の提案があり、共同で検討した結果をパーソルワークスデザインに提案しました。
- ⑧ 他市民活動支援センターサイトの調査
府中市民活動支援センターがWebサイトをリニューアル予定で、次期はちコミねっとの参考にすべく開発者ヒアリングを実施しました。

【課題と評価】

- ・様々な改善要求を行ってきましたが、古いシステムであること、2020年4月に新システムに移行予定であることから、なかなか要求に対応していただけないが、団体向けマニュアルの大幅強化や、市民企画事業採択団体向け講習、個別講習など「市民活動団体に教えてできるようになってもらう」ことに注力し、サイトの活性化維持はできていると考えられます。これは府中市民活動支援センターやシステムベンダーからも「元気365を一番活用しているのは八王子」という評価をいただいています。
- ・創価大学からも指摘されたように、情報のプッシュ機能、レコメンド機能など、現在のWebシステムでは必須と思われる機能が不足しているため、新元気365に移行するかを含め時代に即したリニューアル計画を検討していきます。

(3) 職場内 ICT 環境の整備

活動内容

○情報セキュリティ全般の強化

- ① 毎月のJ-LIS対応
特にEmotetウイルス対応を徹底しました。
- ② 市からの指示事項対応 パソコン管理台帳の整備など
パソコン台帳、備品リストなどを整備し市へ提出しました。パソコンのメールアカウント乗っ取りウイルスがスタッフパソコンに侵入していないかチェックしました。
- ③ ウイルス対策ソフトの更新
更新時期がきたウイルス対策ソフトのライセンス更新を実施しました。
- ④ 業務データの保全
ファイルサーバーの定期的診断を実施しました。
- ⑤ 個人情報・法人情報データの漏えい対策
DeviceLockの更新、サイボウズファイル管理アクセス権の見直しを実施しました。
- ⑥ 管理指定者向け情報セキュリティガイドラインの遵守およびパソコンとサーバーのセキュリティ関連の設定

Emotet 対応やトロイの木馬型のフェイク広告などの対応を全スタッフに周知しました。

- ⑦ 貸し出しパソコンの整備、さぼはちガーデン設置パソコンのセキュリティ管理作業履歴の自動消去、USB メモリ挿入時の自動ウイルスチェックなどを整備しました。
- ⑧ Wifi 設備の更新 最終的に市の承認を得て Freespot を導入した。来館者用接続マニュアルを整備した。同時接続数が約 10 倍に改善され、安定稼働しています。
- ⑨ 支援センターと協議会のネットワークおよびファイルサーバーを分離し、無駄な情報共有による情報漏洩のリスクをなくしました。

○パソコン性能改善によるスタッフの作業効率の向上

- ⑩ 業務で使用している全ての Windows7 パソコンおよび Windows8.1 パソコン 7 台を Windows10 に無償アップグレードしました。
- ⑪ 貸出機に使用しているパワーアップ講座用パソコン(20 台)を Windows10 に無償アップグレードしました。
- ⑫ 性能問題を抱えているパソコンを Windows10 にしても実用に耐えうるように、メモリ増設や SSD 化、不要アプリの削除などを行い、業務パソコン、貸出パソコンともに性能問題でクレームが出ないようになりました。
- ⑬ Office2010 をインストールしている PC は Office2019 に 2020 年度更新する方針を固めました。
- ⑭ プロジェクター1 台が異音を出し始め団体からもクレームがあったため買替

○サイボウズ Office の有効利用を図りました

- ⑮ サイボウズ Office 管理者業務
新スタッフ向けの操作方法講習会 2 回、活用のための啓蒙活動、運用ノウハウの共有を行いました。
- ⑯ 利用率の向上 スタッフおよび部長は全員スマホアプリを利用できるようにしました。
ほぼ達成しました。
- ⑰ 承認フロー、決済フローの再検討と再構築。特に交通費精算と謝金支払い請求処理。
承認フロー、決済フローは整備したが、一部のスタッフでの運用にとどまりました。

【課題と評価】

- ・ スタッフ向けには、パソコンの高速化と安定稼働、セキュリティの強化と啓蒙、サイボウズでの情報交換と情報共有が浸透し、業務効率の向上とセキュリティレベルの向上を達成しています。またパソコンの性能強化施策により新規購入を行わなくて済んだため、経費削減にもなっています。
- ・ 市民向けには、機能アップした Wifi 環境の提供、貸出パソコンの高速化、プロジェクターの買替などで、便宜性が大幅に向上しました。特に Wifi とパソコン関連ではクレームが 1 件も出なくなりました。
- ・ 会議室予約管理や団体の持ち込みチラシなどの掲示物など、紙で行なっている業務がいくつか残っており、会議室予約管理システムや掲示物データベースの構築など、市民サービスの向上につながる ICT 環境をより整備していく必要があります。

7. ファンド部活動

(1) 物品の支援

◆寄付

市民の方々から収納家具・用品(10)、扇風機等電化製品(6)、掃除用具(3)、テーブル(3)、カメラ(2)事務用品・文房具(2)など7件ご寄付いただきました。

◆提供

ノート(170)、チェア(65)、事務用品・文房具(50)、ファイル(27)、テーブル(11)、収納家具・用品(10)、電化製品(5)、掃除・雨具(4)、カメラ(2)デスク(2)筆記用具(1)、その他食器等(191)など14件ご提供いたしました。

◆今後の対応

寄付件数、提供件数共に前年度に比べ 2 分の1と少なめでした。今後、寄付に関しては企業訪問

を中心に「ゆめおりファンド」の更なる認知度アップを、提供に関しては、認証団体を中心に頒布の情報を提供していましたが、その範囲を「ゆめおりファンド」未参加の団体にまで広げることで「ゆめおりファンド」認証団体増を目指します。

◆物品支援の認知度アップ、PR

「ゆめおりファンド」の認知度を上げるため、従来からのウェブサイトへの掲載、ファンド部レポート発行を行いました。

- ・寄付のお問合せ時、あるいは寄付いただいた後に物品頒布の案内状を送付しました。
- ・市民サポーターの発案により台風 19 号で被災された団体を対象に在庫品の頒布案内を行いました。

(2) 人財支援（プロボノ）

◆人財支援（プロボノ）

プロボノ開始後 4 年目となり支援件数（本年度内に成果物納品）は 3 件、仕掛中 1 件でした。これは、プロボノ説明会、広報紙、ファンド部レポートをはじめとした PR の効果に加え、プロボノのメリットが団体の間に認知されてきたことによるものと考えています。

◆支援実績

団体	テーマ	プロボノ ワーカー	2019										2020						
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
八王子わん♡にゃんクラブ	HP活用	早川さん	⑦H	⑪完													H	:ヒヤリング	
八王子わん♡にゃんクラブ	会計管理導入	児島さん、了戒さん、石見さん		⑫H	⑮KO	⑲W	〇W	〇W	〇W	⑳W	㉓完							KO	:キックオフ
MOA美術館 八王子児童作品展実行委員会	HP活用	早川さん										⑩W	⑬完					完	:成果物納入
めじろ台地区・まちづくり協議会	HP活用	早川さん										⑰H	⑱H	㉒W				㉔W	㉓完

① ホームページ活用

団体:八王子わん♡にゃんクラブ 目標:ホームページ活用
 期間:2019.3.7~4.11 プロボノワーカー:1名(現役1名)
 取組:専門スキルを有するチーム、かつ、団体の意欲も高く、順調に立上げました。
 効果:HPは活動への市民の理解や行政等との連携強化に大きく寄与すると思われま

② 会計管理導入

団体:八王子わん♡にゃんクラブ 目標:会計管理導入
 期間:2019.4.21~10.14 プロボノワーカー:3名(現役1名)
 取組:無料ソフトを導入、カスタマイズすると共に補助金交付先への報告書への連動も可能にし、操作マニュアルも作成しました。
 効果:コード設定・日常処理・報告書作成の仕組を明確化し、会計・決算処理フローを丁寧に説明し抱えていた不安を払拭しました。
 2か所からの交付金といった複雑な決算も連動化で大幅な工数削減を実現しました。

③ ホームページ活用

団体:MOA美術館八王子児童作品展実行委員会 目標:ホームページ活用
 期間:2019.10.10~10.19 プロボノワーカー:1名(現役1名)
 取組:団体がやりたいことと課題を具体的に整理していたので、2回でHPを完成しました。
 効果:丸投げでなく、教わりながら同時並行でHPを制作できました。そのノウハウが財産になったとのことでした。

④ ホームページ活用

団体:めじろ台地区まちづくり協議会 目標:ホームページ活用(開設)
期間:2019.11.14~制作中 プロボノワーカー:1名(現役1名)
取組:進行中

◆プロボノ説明会

- ・ 9月29日(日)サービスグラントの嵯峨代表理事を招聘し、啓発部の支援講座として開催しました。
- ・ 団体13(高尾山の花名したさがし隊・わいわいサロン・NPO 日本ファミリーカウンセリング協会・MOA 美術館八王子児童作品展実行委員会・すまいるカフェ・露の会ふきのとう・かたつむり・パフォーマンス集団ヨロコンデ・どんぐりの会・情報ボランティア・しあわせのたね・CES・シニアが教える小中学生の教育教室)、大学1(明星)、ワーカー6人
- ・ 発表関係7人
- ・ 一般1、スタッフ8人
- ・ 計35名に参加して頂きました。

◆プロボノワーカー貢献証(2020/2/1)

八王子市内で自主的に公益活動している市民活動団体の理念に共感し、自らの知識やスキルを無償提供し、団体自体の課題解決にともに取り組んだプロボノワーカーに対して「プロボノワーカー貢献証カード」を贈呈することにより、その行為に感謝の意を表することを目的とする。

貢献証カードは希望者に対してプロボノプロジェクト1回完了するごとに1枚ずつ発行することにしました。

◆広報紙によるPR(2019.9.1)

SUPPORT802(支援センター広報)で「その困りごと、プロボノがお助けします!」との題でプロボノを分かりやすくPRしました。

◆評価

プロボノをスタートして4年目を迎えました。今年度はプロボノ実施目標1件を大きく上回る4件を達成しました。広報、ファンド部レポート、ロコミ等のほか9月にプロボノ説明会を開催し中期プロボノ参加へとうまく繋がったこと。日頃から事務局と団体、事務局とプロボノワーカーとの関係性が出来ていたことも大きな要因であったと考えています。

今年度、新たにプロボノワーカー貢献賞を設けました。無償ボランティアを前提としたプロボノワーカーの努力に報いる事、社会貢献の証として自己有用性やキャリア開発に繋がれば幸いと考えました。

次年度は、更なる支援団体と企業内プロボノワーカーの発掘を意識した活動を展開していきたい。

(3)「ゆめおりファンド」PR活動

◆NPOフェスティバルブース展示(9/7)

「ゆめおりファンド」物品支援、人財支援(プロボノ)、JCNE(非営利組織評価センター)の漫画「組織評価」のすすめを3の柱として展示しました。

ブースに立ち寄った市民に対し「ゆめおりファンド」を丁寧に説明いたしました。

◆ファンド部レポート

ファンド部レポートを発行いたしました。

◆チラシ

ファンド部市民サポーターの発案により台風19号で被災された団体を対象に在庫品の頒布案内を行いました。

(4) 団体情報開示支援

◆ゆめおりファンド参加団体

ゆめおりファンド参加団体は56団体、CANPAN認証レベル★★★以上の団体はその内11団体です。CANPAN認証レベル★★★以上の団体は「ゆめおりファンド認証団体(=積極的な情報公開をしている団体)」として「ゆめおり認証マーク」を表示すると共に支援センターのウェブサイトおよびセンターフロア内の書架に「ゆめおりライブラリー」として団体紹介ファイルを設置、公開いたしました。

◆「ゆめおりファンド認証盾」贈呈

また、支援センターに指定管理者、NPO法人八王子市民活動協議会から団体情報の開示に努めている団体として「ゆめおりファンド認証盾」贈呈しました。

贈呈団体は、露の会、チャイルドライフ、八王子いちよの会、スペシャルオリンピックス日本・東京、八王子市民活動協議会、筋無力症患者会、八王子共生社会推進会議、難病ネットワーク、フードバンク八王子えがお(辞退)です。

◆CANPAN登録・更新説明会

説明会を定期的に行いました。参加団体は少ない中2団体に参加し登録していただきました。まだ認知されていないので今後も継続の予定です。

(5) 信頼についての検討 (支援センター内報告)

◆課題

IT、クラウドファンドの普及に伴い、サイト公開、利用できる助成金獲得方法が多岐にわたるようになってきたために亘りCANPANのメリットが見えにくくなっています。工数不足、NPO報告とダブリ二度手間になる等から情報公開に熱心な団体を除きCANPAN更新は進んでいないのが実情です。そこで簡単に入力でき団体の信頼性を担保する方法はないか調査しました。

◆情報収集

行政のNPO向け助成金・補助金等交付の審査方法は書類、プレゼンテーション(公開・非公開)、審査委員会による審査等があげられ、審査基準は、事業の公益性、具体性、客観性、現実性、自立性、先駆性、地域性、効果等々があげられています。物品支援、人財支援を目的とする団体の信頼性を担保するための方法とは距離があると考えました。

将来を先取りした第三者認証機関JCNE(非営利組織評価センター)の認証レベルはCANPAN★★★★★以上の団体を対象としたものでした。これは現状よりも詳細な情報開示を求めています。CANPANを信頼性担保のツールとして活用している中間支援組織もあるとわかりました。

◆検討結果

「ゆめおりファンド」が独自に団体の信頼性を評価するチカラはないので、現状通りCANPANを継続活用することが最善と考えました。

今後、CANPAN更新、★★★化を促進するためには、ステークホルダーの信頼を得る必要があることをご理解いただかなければなりません。しかし「なぜ信頼は必要なのか」は意外と曖昧ではないかとの意見が出されました。そこでファンド部として「なぜ信頼は必要なのか」「信頼を定義」する作業を市民サポーターと共に行うことにしました。

※)市民サポーターとは

ファンド部は地域貢献、活性化に関心の深い市民の方々をサポーターとして参加いただき、打合せや討議の場で市民視点から自由闊達なご意見を頂戴しています。これにより当事者の目からだけでなく、客体の目の両面からバランスのとれた情報収集と判断ができると考えています。

①信用と信頼

まず、信用とは、過去、現在の成果・実績の事実や詳細から、それが確かなものとして受け入れることで客観的な判断と言えます。

次いで、信頼とは、信用をベースに今後の計画に対して相手の立場に立って実現可能性を期待し任せられることで主観的な判断が入ると考えました。

②情報開示の必要性

信用と信頼を得るためには、過去の成果・実績、ビジョン、理念、将来計画、組織・運営など情報公開をする必要があると考えます。ウェブサイト、SNS、口コミ等その手段は多々ありますが、ゆめおりファンが公益事業コミュニティサイトCANPANへの登録を薦めている理由でもあります。

③公開情報を誰が見るのか

公開された情報は、企業、大学、団体、市民は勿論ですが、最近では、信用・信頼できる団体か、将来に亘って継続できる団体か否か等助成の判断の一助として自治体、助成団体が利用しているようです。また、プロボノワーカーも団体を理解し、支援する際に活用しています。

④信頼が必要な理由

公開情報から、まず、団体の実績、ビジョン、理念、組織・運営、価値観、スタッフを理解してもらえます。次いで信用でき、信頼できる団体と分かれば、自分も参加したい。利用したい。応援したい。寄付したいという気持ちが芽生え、更には、もっと良い活動にするための組織に一員となって活動したい。助言したい。このような思い、考えの方が増えてくるかもしれません。

地域課題の解決や地域の活性化等団体の目標を達成するために、周囲の人々を巻き込むことができるのではないのでしょうか。周囲の支援を受けることにより一団体だけでは成しえなかった期待以上の成果を創出できるのではないのでしょうか。これこそが、信頼が必要な理由ではないだろうかと考えました。

⑤「ありがとう」の連鎖

地域：課題解決。活性化により、安心・安全で明るく便利な環境の中で過ごせるようになったと感謝します。

団体：地域の方々の感謝の気持ちを共有し一緒に喜び、達成感や次の課題解決への意欲が湧きより一層活動にコミットで切るようになります。

市民：自分の持つリソース、チカラで社会貢献、地域貢献できたことで自己効力感が高まります。また、多様な方々との交流を通じて自己理解、他者理解が進み、更なる活動の励みとなります。

(6) 文書体系整備

必要な文書をリンク先から呼び出す仕組みづくりはほぼ完了しました。今後は継続して内容の充実を図っていきます。

(7) 「団体との顔の見える」関係づくり

団体と「顔の見える関係」の構築を目指し、団体主催のイベントへの参加、団体訪問等で2WAYコミュニケーションを図りました。団体訪問14件に加え企業当訪問9件でした。

8. 地域・事業連携部の活動

今年度より新たに支援センター内に地域・事業連携部が発足しました。今年度は、昨年開催することができていなかったNPO フェスティバルとNPO 八王子会議を、支援センターの事業として開催を致しました。

(1) NPO フェスティバル

2019年9月7日(土)にJR八王子駅南口のサザンスカイトワー八王子1階東側広場にてNPO フェスティバルを開催いたしました。

参加団体は31団体、会場中央にステージを設け、八王子石森孝志市長の挨拶を皮切りに11:00開始、16:30までの長時間のイベントとなりました。

このフェスティバルを目的に来られた来場者に加えて、JR利用者やバスターミナル利用者が参加をし、八王子NPO団体の活動広報の大きな一助となりました。

また、中央ステージでは、多種多様なパフォーマンスが繰り広げられ、八王子観光PR特使のシンガーソングライター富永裕輔さんを始めとし、午前中にはわくわく紙芝居サークル、そして午後からは八王子センター元気に所属する方々が、腹話術、マジック、ギター・アコーディオン演奏、三味線、演芸(大正琴・ハーモニカ・小太鼓・ウクレレの演奏、民謡)などを披露されました。

【課題と評価】

このフェスティバルでは、参加団体の物販が可能であったことから、各団体オリジナルのグッズの販売、野菜などの生産品などの販売もされ、来場者に好評でした。

また、日常的には単独で様々な活動課題に対応し頑張っている団体が顔を合わせて語り合う場ともなったことから、副次的に団体交流効果も生まれました。

参加団体へのアンケート集計では、「参加して良かった」が9割を超える高い評価をいただきました。

この事業は、毎年継続して開催し市民への定着を図ることが必要です。課題としては、9月初旬の猛暑の問題などが挙げられました。

(2) 第7回 NPO 八王子会議

2020年2月15日(土)13:30より労政会館ホールにて第7回NPO八王子会議を開催いたしました。

第1部としてActive Learners 共同代表山ノ内凜太郎氏の基調講演「これからのNPO活動」があり、第2部では、分科会テーマ「協働と資金」「人材の確保と育成」「事業企画と広報」についての報告が行われました。

報告団体は、第1分科会「緑サポート八王子」、第2分科会「エヌピーオー・ヒュージョン長池」、第3分科会「はちねこ」が担当し、全体へのミニレクチャーののち、第3部で参加者が各分科会テーマにわかれて議論を展開いたしました。

【課題と評価】

今回の特徴としては、第3部での議論の場として“エンタくん”を用いた円卓会議形式であったこと、また議論の集約として専門家3名によるグラフィック・レコーディングでの議論の見える化がおこなわれたことなどが挙げられます。

参加者からのアンケート集計では、会議全体として「良い」が76%、「やや良い」が26%と高評価であり、「具体的事例で参考になった」、「様々な団体に会えて良かった」、「いろいろな団体の苦労話で自分の団体ならどうすると教わりました」などの意見が寄せられNPO八王子会議の目的をかなりの程度達成したと考えられます。

課題としては、「もう少し時間がほしかった」や「より深く議論したかった」などの意見が数点寄せられ、実施方法について、講演中心から討論中心へとシフトするなどの検討が必要です。

【3】はちおうじ志民塾（八王子市からの委託事業）

地域で活躍、活動する担い手を育成する「はちおうじ志民塾」は、2月に第11期の塾生21名が卒塾し、志民塾卒塾生は総勢245名になりました。今後の地域での活躍が益々期待されます。

第11期の志民塾は昨年同様、9月開講、2月の卒塾までの半年間で全16回の講座を実施しました。受講生は4つのグループに分かれてグループワークをしたり、自主的に団体を訪問見学したり、卒塾発表に向けての話し合いを重ねたりと沢山の活動をこなし、その間に培われた仲間同士の繋がり、絆も志民塾受講生の宝物になります。

また、11期募集を兼ねてプレ志民塾を開催し、卒塾生の活動紹介や講演を行ったことによって志民塾への周知や関心が広がったと感じています。

卒塾生たちは八王子の地域活動の担い手として大きな力になっています。OBのなかには卒塾後に協議会の会員や理事となり活動する方や支援センターのスタッフとして活躍する方も多くいます。

今後も協議会は卒塾生たちの活動を支援していきます。

【課題と評価】

①学びの内容について

11期を終了してこの11年間の卒塾生は245名となりました。7期終了後に、志民塾が始まった8年前とは社会環境も変化しており、カリキュラムの内容を改める時期ではないかとのことから、8期からは前期・後期に分かれていたカリキュラムを通期にして、7月開講から9月開講にするなど大きな改訂を行いました。それにより、スケジュールも一本化され、受講生も学び易くなりました。その反面、基礎的な内容が多くなり、専門性については物足りないとの声も聞かれます。

今後のカリキュラムの改定については受講生からのアンケート結果を参考にしながら、市とも協議を続けていきます。

②プレ志民塾の開催効果

9期募集から「プレ志民塾」を開催しています。卒塾生による活動紹介を行い、その後ミニ懇親会で情報交換ができる場所を設けたことにより、志民塾の周知にも役立ったと思います。

③今後の卒塾生の動向調査とフォロー

一方で志民塾開始から11年が経ちましたが、卒塾生達がどのような活動をしているかの把握が十分ではありません。今後は卒塾生の活動動向調査や、活動の場の提供、紹介にも一層力を入れて、卒塾後のフォローアップ体制も整えていかなければなりません。

【4】協議会自主事業

1. 総務部・事務局

直接担当する理事研修会、新年交流パーティーに加え、わくわく広場、オトパ等を後方支援しました。

(1) 会員管理

令和元年度の正会員数は右の欄に示すように若干の減少を示し、賛助会員・協力会員が増加しています。正会員から賛助会員・協力会員への変更が一因と思われます。また、協議会を知っていただくために、はちおうじ志民塾、シンポジウム、高齢者いきいき活動展（本年度初参加）等でPRしていますが、なかなか会員増につながりません。

会員数の推移		
	H30 年度末	R1 年度末
団体正会員	69	65
個人正会員	57	51
賛助会員	47	49
協力会員	29	35
合計	202	200

会費につきましては、前年度に引き続き会費回収などの会員管理強化を行いました。

会費未納会員は当年度も多数発生しています。対応として年間 2 回文書で督促しています。3 月には電話でも督促しています。その結果本年度は、会費納入率は、86% (2 月末現在) となっています。原則として 2 年未納の方は本人に確認し退会処置をとっています。

(2) 新年会員交流パーティー

令和元年度は、令和 2 年 1 月 25 日(土)の午後、前半は感謝状贈呈を主にした式典、後半はパーティーという企画で開催しました。

昨年参加者 77 名に対し、今年は、83 名と昨年を上回る参加者を迎え盛会でした。

参加者には、石森八王子市長をはじめ都議会議員(3 名)、市議会議員(7 名)や行政関係者、団体、個人会員など、様々な分野の方に参加して頂き、それぞれの情報交換ができ、協議会の特色のある交流会となりました。

恒例となった連続 10 年会員在籍者への感謝状贈呈対象は、1 団体 2 個人でした。

また、わくわく広場において戴いた寄付金を基に、市民活動団体支援金として「一般社団法人親子支援ネットワークたんぼの輪」に支援金を贈呈いたしました。

多額寄付者 1 名(小原清氏)にも感謝状を贈呈いたしました。

(3) 西武信用金庫助成金の窓口

西武街づくり活動助成金は、昨年度は西武信用金庫を窓口とした一本化の縮小事業となり、協議会が例年のような第 1 次審査窓口とはなりませんでした。西武信金としては、従来規模の助成金への復帰を目指しているとのことで、その際には再度協議会が第 1 次審査窓口を引き受けるつもりです。

(4) 女性・若者・シニア創業サポート事業(女若シ創業サポート事業と略す)

女性・若者(39 歳以下)・シニア(55 歳以上)の創業者に対して、東京都は 18.8 億円(平成 30 年度)の原資を信用金庫・信用組合に預託することで、創業者に有利な条件での融資を実行する事業を推進しました。

協議会は「地域創業アドバイザー」としてかかわっています。これまでは、年に 1 回の創業セミナーを開催していましたが、昨年度は創業セミナーを 3 回(7 月、12 月、2 月)、業種別セミナーを 1 回(1 月)と計 4 回のセミナーを開催いたしました。これには、4 名の方が新たなセミナー講師として登壇いただきました。また、評価面談 5 件、融資実行 3 件、ハンズオン支援延べ 9 回実施しました。

【課題と評価】

総務部・事務局は直接担当するイベントに加え、協議会が行う様々な事業を後方支援しました。しかし事務局を担っていただけるサポーターの確保が難しくなり、事務局の負担が増加しています。

女若シ創業サポート事業では、外部の専門家(行政書士)をスタッフとして協力いただき、業務を効率化するとともに、新たなセミナー講師が協議会内に誕生いたしました。

会員管理の面では、正会員が減少し賛助・協力会員が増加しています。協議会の存在意義を周知徹底し、退会者をなくすとともに新規会員を増員する工夫が必要です。

2. 広報部

広報誌とホームページで市民活動協議会の活動を紹介しました。

(1) 協議会だより

協議会だよりを隔月(2、4、6、8、10、12 月)で年 6 回各 1800 部を発行しました。会員向けに郵送し、八王子市内各公共施設 60 カ所で配布するほか、会員のご協力で登録団体のイベントや店舗および駅構内で配布していただきました。

紙面は写真やイラスト活用し、明るい画面で若い人にも手に取っていただけるような構成を心がけまし

た。

(2) ホームページ

ホームページはトップページから各事業ページにリンクさせ、関連事業の情報を容易に取得することができるようにレイアウトしました。更新もリアルタイムに管理され本年度は37回の更新回数となりました。情報が速やかに展開されたため、イベントの参加申し込みにも活用していただきました。

【課題と評価】

協議会だよりは各所に配布した残部数が多数あり、公共施設を利用した市民の方に興味をもっていただけの紙面作りが課題となりました。

ホームページは閲覧回数をupさせるために、協議会だよりの発送時に会員団体のチラシを同封して好評いただいていることから、次年度はホームページ内にも登録団体のイベント情報やチラシをリンクし情報の共有をしていきたいと思えます。

協議会だよりの紙面の内容はオトパや総会などの年間固定記事は掲載月が決まっていますが、イベントや講座のスケジュールが直近で決まることが多々あり、掲載が間に合わない場合はホームページでも展開して情報発信しており、紙面とネット媒体の利点を活用した広報を行うことができました。

3. 交流推進部

(1) お父さんお帰りなさいパーティー（略称オトパ）

令和元年度は3月14日に労政会館で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響をかんがみ中止しました。

「きっと見つかる！新しい仲間～地域の活動博覧会」をキャッチコピーとした第23回オトパは参加者を増やすために企業回りや町会へポスターちらしの協力をお願いするなど、新しい試みを実践していただいただけに残念でした。

【課題と評価】

労政会館の使用期限も考慮し、名称や内容は次年度要検討です。

(2) 第39回八王子いちようまつり「わくわく広場」(11月16日・17日)

協議会理事の高齢化に伴う外注化で、経費が上がり、参加費を3000円にしました。例年と変わらぬ参加団体があり、のぼり旗を新しく購入し、賑わいと誘導効果で多くの参加者につながりました。

【課題と評価】

反省点としては、いちよう祭りの一環なのでお祭りの要素が強いのは致し方ないですが、市民活動団体の実行委員会方式で運営した会場なので、実行委員の役割や実行委員会のあり方についてルール決めをする必要があります。

今年度は、リサイクルバザーや参加団体の特性から車椅子での来場者が非常に多く、長房市民センターの駐車場が大変混雑しました。車の出入りには不便ではありますが、三角ポールなどで入り口の管理をしっかりする必要がありました。

4. 地域ネット部

「活き生きハンドブック」のデータ更新は、継続して行っています。

また、一般社団法人八王子自治研究センターと共催で第11回 共助のまちづくりシンポジウムを開催しました。

今回は、「人口減少期を迎えながらも 持続可能な共生社会を考える～地域と市民活動のネットワークの構築を～」をテーマとして、首都大学東京の山下祐介教授の基調講演「人口減少の隘路をどのように抜けて次世代にまちをバトンタッチできるのか?」、パネルディスカッションの内容で実施いたしました。

参加者は、当協議会の他に、八王子市職員、生活協同組合、首都大学、市議員、一般市民など 50 名を数えました。

人口減少・少子高齢化社会が進行する中で、「違いを知り、支えることも、支えられることも普通にできる地域社会」をどう創造していくかという課題に向けて、考える新しい提案ができました。

【課題と評価】

シンポジウムの開催は事前研究会の実施で新しい形のシンポジウムが開催できました。また、八王子ビジョン 2022 も間もなく改定期を迎えることから、次期ビジョン策定へ向けて、SDGs の理念とのかかわりなど、長期的な視点からの検討が今後必要になると思われます。

5. 政策研究企画部

平成 31 年度（令和元年度）の政策研究企画部としての活動実績は以下の 3 項目です。

- (1) 活動の「可視化」と PDCA サイクルによる改善
- (2) センター事業との連携・協調
- (3) SDGs の理解と実践（11/23 SDGs でまちづくり～八王子編～）

(1) 活動の「可視化」と PDCA サイクルによる改善

理事会および三役会の議事報告の迅速化・見える化のための一助として、毎回の会議中に議事メモを作成し、会議終了直後にメーリングリストにてこれを配布するという迅速化を実施しました。また三役会においてはその議事内容が理事に公開されておらず、これも改善し、見える化と情報伝達の迅速化を実現しました。

(2) センター事業との連携・協調

センター事業として実施した市民団体向けアンケートの作成・修正に協議会として協力しました。また、その回答の分析結果を踏まえて 2020 年 2 月 15 日に実施されたセンター事業 NPO 八王子会議に関わり「1. 協働と資金」、「2. 人材の確保と育成」、「3. 事業企画と広報」の 3 本柱を企画しました。さらに NPO 八王子会議のアンケートの作成も担当しました。

(3) SDGs の理解と実践（11/23 SDGs でまちづくり～八王子編～）

11/23(土)10:00～12:30 に「SDGs でまちづくり～八王子編～」と題したイベントを労政会館にて開催しました。このイベントの特徴は 2019 年 good design 賞特別賞を受賞したカードゲーム「SDGs de 地方創生」を用いて参加者全員がまちづくりのプレイヤーになり、2030 年までの「八王子のまち」をシミュレーションするというものです。

当日の講師は、元富山県氷見市長の本川裕治郎氏です。参加者は、総数 32 名、内訳は 8 名の一般市民、3 名の志民塾卒業生、6 名の理事、2 名の協議会事務局スタッフ、3 名のセンター職員等でした。当日参加者の中から、新たに 2 名の協議会入会者もでました。

【課題と評価】

- ① (1) の取り組みにおいては、随時、各所にて、PLAN の明確化、DO の効率化、CHECK の的確な分析、ACTION による PLAN の修正、といった PDCA サイクルを実施していくことで、設定された ACTION が修正され、よりよい成果が実現できたと考えます。
予定していた他市民活動センターの視察は事情により実施できませんでしたが、(3) の新しい具体的な取り組みを実施できました。
- ② (2) の取り組みにおいては、今後活かせる定量的な項目を集計でき、「時間が足りないくらい内容が充実していた」「今後も同様なイベント開催希望」など好意的な意見が多く、今後の支援センターの活動に役立つと思われます。
協議会と支援センターおよび支援センター各部の連携・協調はいまだ中間地点であり、今後の

課題としては関係者らによるさらなる共同歩調が必要不可欠です。

- ③ (3) の取り組みにおいては、次のような実施効果を上げています。
- (a) 八王子市民および近隣市民団体のSDGsへの啓蒙活動、(b) 協議会員およびセンター職員、志民塾生およびのSDGsに対する理解、(c) 17の目標を有する市民団体間のネットワーキング、(d) 八王子市民活動協議会のブランディング、(e) 協議会会員増。以上の各項目について、概ね良好な結果を得ました。多くの関係者による広報や当日の運営の協力が得られたから実現できた成果です。
- ④ 八王子では、市をはじめとした行政・大学・企業、が中心となってSDGsの取り組みを開始していますが、市民および市民団体の関与はこれからです。八王子市民活動協議会は、広く市民および市民団体にSDGsの理念を伝えるとともに行政・大学・企業との連携を担い、一人でも多くの市民の理解を深め、行動への転換を目指していきたいと考えています。

また今後の課題は以下のように考えます。

- ・少なくとも2~3か月前のプリントパックを用いた広範囲の広報活動をすべきであった。
- ・協議会公式ページとしてのFacebookページを用いた広報活動をすべきであった。
- ・集客において、志民塾生をターゲットとしていたが、現行の塾生の参加はゼロであった。
- ・市民団体ネットワーキングを意識した講座構築をしていきたい。